

## 第5回市立中学校のあり方検討委員会 会議録（概要）

- 1 日時 令和5年3月1日（水）午後7時00分～午後8時45分
- 2 会場 千手コミュニティセンター 千年の森ホール
- 3 出席者
  - (1) 委員 22名
  - (2) 事務局 6名 渡辺教育長、鈴木教育文化部長、富井教育総務課長、細木学校教育課長、藤田指導管理主事、山岸教育総務課長補佐

### 4 会議概要

- (1) 開会あいさつ（川田副委員長）
- (2) 議事

以下のとおり審議が行われた。

発言者	発言概要
① 検討委員会の会議日程及び内容等について（令和5年3月1日現在）	
事務局	（資料に基づき説明） （質問等なし）
② 雲尾委員長の講話	
話題「これからの中学校教育と地域社会」について	
委員長	（講話（別紙講話資料のとおり）） はじめに～小中一貫教育の可能性 <ol style="list-style-type: none"><li>1. 地域づくりとコミュニティ・スクール</li><li>2. 学習指導要領の示すもの</li><li>3. かわる学校のかたち</li><li>4. 地域学校共同活動</li><li>5. 学校の課題と地域の課題</li></ol> おわりに （質疑）
委員	学校側の新しい取組みたいなところがあるが、今の先生の実態数でこういうことができるとは思えないというのが私の感覚である。先生の配置基準というのがあるが、それ以上がなかなか回せないということなのか、またはそれぞれの学校の取り組み方によっては可能になると考えているのか。実際にそれが可能になるための手法みたいなのところももし考えられるとしたらお聞かせ願いたい。
委員長	簡単に言うと大きくするか、より小さくするかだと考える。小さな学校ほど地域との関係性がよくて、その中でうまくお互いのことが理解し合いながら進めていけるということもある。大きい学校になれば、逆に先生方の数

が配置基準の問題から増えるので、その中で役割分担をしながらチームとして動いていけるというところがある。学校は大きくても小さくても先生たちの仕事の数はあまり変わらない。大体小学校ですと90ぐらいの仕事が細かくあり、これは小さな学校でも大規模校でもほぼ同じである。より大きい学校のほうが先生1人当たりの負担が減るところである。だから、追求すると両極端になってしまう。その中でバランスを取りながら考えていくことになると思う。

委員 以前、学校は1校当たり100人が妥当だという話を聞いたことがあるが、そういった捉え方ではない動きにこれからなるということなのか。

委員長 100人規模だと確かに中途半端というか、やはりもう少し逆に小さくても全校生徒がすぐ把握できるようなところか、もっと1学年2学級以上確実にあるような学校といったようなことでないと動きにくいというところはあると思う。

委員 100人が中途半端だとすると、小中一貫で小学校が例えば80人、中学校が80人で、一つの形からいうと160人は、小さい側に入ってくるのか。

委員長 一つの改善策として求められるように、少子高齢化、人口減少、過疎化の中で、中等教育学校とか義務教育学校などができているが、こういったところは小さくなった学校を何とかして縦に伸ばして大きさを維持しようというためにつくられている部分もある。そういう方策も全国的には取られているというところである。

委員 小規模か、あるいは大規模かという話をした中で、やはり小規模であれば既存の中で対応できること多いのかなと改めて感じた。どんな在り方がいいのか求めたときに、先ほど言った中途半端な状況の学校が統合したところで、学校を新築するわけでもなく、学校の建物だけがどこかに寄せ集められた状況では、今スライドで見たような形にはなりにくいと感じたが、その辺はどう思うか。

委員長 既存の校舎であっても、その中の割り振りを変えることによって、構造壁以外は崩せるので、その中で多様な展開をすることは十分可能になるかと思う。いろんなところをやっていこうと思ったときに、今までの建物をそのまま使うという制約はあまり考えなくてもいいかと思う。

委員 この会は「中学校のあり方検討会」という会だが、今の全体的なお話の中で、やはり中学校区を1つの地域として考えるというお話を聞くと、中学校だけでなく、この会はそもそももう小学校も一緒に考えなくてはいけないのかなと思った。教育のあり方もそうだが、適正配置などを考えたときに、中学校だけで考えずに、小学校も考えたほうがいいのか。

委員長 考えられるのであれば考えたほうがいいのかと思うが、とりあえず小学校のほうの枠組みは済んでおり、その方向で動いている中でできることとい

ったときに中学校のことを考える。しかし、中学校のことだけを考えるときに視野を広げながら考えることが必要じゃないかという提案である。

委員 この会は、中学校の教育、適正配置だけを考えていくべきなのか、そうではなくやはり小学校もまとめて考えるべきなのか、教育委員会はこの話聞いてどう感じたか

事務局 先生がおっしゃったとおり中学校の在り方を考えるには当然その前に小学校という課程があるので、そこでどのように教育をするのか、そこは視野を広げて考えなければいけないと考えている。ただ、小学校の在り方を全く白紙に戻して、また一から積み上げるというのは、小学校については大体もう定まっているので、そこは現実的ではないと考えている。小学校の教育というものを見ながらその次の中学校の教育のステップ、さらにその次は高校になるわけだが、そういった中学校の位置づけの中で中学校の在り方を考えていくことが必要だと思う。

委員 中学校区の地域づくりを考えたときに、最後の適正配置が今の地域自治組織の枠組みと違う地域になることも考えられる。そういったものを検討会で提言するとなると、壮大過ぎると思うが、教育委員会はそのまで考えているか。

委員長 一つには中学校区の地域学校協働本部がどう構成されるかによる。仮にそうなった場合であれば、それぞれの地域自治組織の方々の中で構成される地域学校協働本部という形がその中学校の学校運営協議会のカウンターパートナーとして組織されるというイメージになるかと思う。それぞれの地域が独自性を崩して新しい地域に変えるということまでは考えられないことになる。

### ③委員の意見・感想等について質疑応答（第3回及び第4回会議関係）

事務局 (資料に基づき説明)  
(質問等なし)

#### (3) その他

##### ① 次回会議の開催日について

###### ア 会議内容

別紙「第6回検討委員会（意見交換等）について（企画案）」のとおり

###### イ 日程

日程調整表の提出を依頼。後日、次回日程をお知らせする。

##### ② その他

なし

#### (4) 閉会